

# RETAILER ACADEMY NEWS

Dec 2024 | Bentley Motors Japan



## 「Beyond 100+」戦略を発表 未来を見据えた新戦略の骨子とは

ベントレー モーターズはこのほど、2020年に策定した中長期経営計画「Beyond 100」戦略の期間を2030年から2035年に延長し、新たに「Beyond 100+」と名付けた戦略を展開していくと発表しました。新戦略の骨子をあらためてご紹介します。

### BEVによる新セグメント創出

現在開発が進められているベントレー初のフル電気自動車（BEV）は、新たなコンセプト「ラグジュアリー アーバンSUV」により世界初のセグメントを創出することを意味します。このBEVは2026年までに発表する予定です。また、このモデルはクルー本社で設計、開発、生産が行われる予定で、今後10年間にわたり、毎年新しいプラグインハイブリッドモデル（PHEV）またはBEVを発表する計画の第一歩となります。ベントレーは2035年までにBEVへの完全移行を目指し、製造および投資を積極的に推進します。



### PHEVのライフサイクルを延長

ベントレーはすでにラグジュアリー ハイブリッドカーの分野で先駆者としての地位を築いていますが、これをさらに確固たるものとするため、PHEVのライフサイクルを2030年から2035年に延長します。また、クルー工場で20年以上にわたり生産されてきたW12エンジンの生産終了に伴い、コンチネンタルGT、コンチネンタルGTC、フライングスパーは、ウルトラパフォーマンス V8 プラグインハイブリッド パワートレインでのみ提供されるようになりました。



### 次世代「ドリームファクトリー」の構築を推進

クルー工場の根本的な再構築もさらに推進し、次世代の製品と従業員の未来を確保します。歴史あるクルー工場を改装し、この業界をリードするカーボンニュートラル認証をすでに取得。電動化の未来に向け、「ドリームファクトリー」の構築に注力していきます。105年というベントレーの長い歴史の中で、ベントレー史上最大規模の自己資金による投資プログラムが実施される予定で、新しいデザインセンター、ペイント施設、BEV専用の最新組立ラインを導入し、クルー工場の85年の歴史を電動化に対応した拠点へと変革します。



### フランク＝ステファン・ヴァリザー会長兼CEOのコメント

ベントレーがBeyond 100戦略を掲げてから約4年が経過し、私たちは現在の経済状況、市場、法規制に適応すべく、未来への大規模な変革を開始します。新しい「Beyond 100+」戦略は、2030年以降のベントレーの高い目標を示す指針であり、2035年までに完全電動化を達成することを目指し、100年以上にわたって卓越したプリティッシュ ラグジュアリーカーを生産し続けてきた実績に基づいて、さらなる進化を遂げてまいります。





## 新型GT・GTC・フライングスパー マリナーの特徴

ベントレー モーターズはこのほど、新型コンチネンタルGT、コンチネンタルGTC、フライングスパーにマリナー モデルを追加しました。すでにご案内済みですが、今後の商談時の参考としていただくため、あらためて新しいマリナー デリバティブの特徴を解説します。

### エクステリアの主な特徴

- フローティング ダイヤモンド フロントグリル
- ブライトクロームのディテール（フロントグリル サラウンド、センターバー、ローワーグリル、ボディ側面下部、テールパイプなど）
- サテンシルバー仕上げのミラーカバー
- クリスタルカットのディテールを備えたシングルヘッドランプ（GT・GTCのみ）
- 22インチ マリナー専用デザインホイール（タングステングレー×ポリッシュ仕上げ、セルフレベリングバジ付き）



### インテリアの主な特徴

- 3色を使用したテーマの異なる8種類のカラースキーム（独自に3色を組み合わせることも可）
- マリナー専用キルティングパターン
- グランドブラックのフェイスパネル（MULLINERオーバーレイ付き）
- ダイヤモンドミルド コンソールパネル
- トノカバーのマリナー専用キルティングパターン（GTCのみ）



### ドライブ体験・快適性を高める充実の装備

- 姿勢調整機能、シートオートクライメートシステムを標準装備
- サードパーティ製アプリをインフォテインメントシステムで利用できる My Bentley App Studio
- シティスペシフィケーション、ツーリングスペシフィケーションを標準装備



### パフォーマンス

- 最高出力782PS、最大トルク1,000Nmを発揮するウルトラ パフォーマンス ハイブリッド パワートレイン
- 最高速度335km/h、0-100km/h加速3.2秒
- EVモードのみでの走行可能距離：81Km（GT・GTC）、76km（フライングスパー）
- 48Vシステムを活用した電子制御アンチロールシステム「ベントレー ダイナミック ライド」を標準装備



### ビスポーク

- 過去のペイントも含め101種類のボディカラーから選択可能。マリナー特注カラーにも対応
- インテリアはメインのレザーカラー 15色、セカンダリカラー 11色、アクセントカラー 6色を用意。組み合わせのバリエーションはほぼ無限
- フェイシア、ドアウェストレールのパネルは、8種類のウッド、3種類のテクニカルフィニッシュから選択可。デュアルヴェニアとしての仕上げも選択可能





## COMPETITOR INFORMATION



# 競合ブランドの最新事情

自動車を取り巻く環境が刻々と変化する中、それぞれのプレミアムブランドは新たな方向性を模索しています。そこで今回は、ベントレーと競合する主要ブランドの最新状況についてお伝えします。

### メルセデス・ベンツ



#### TOPICS

- 2024年12月8日、メルセデスの新たなラグジュアリーブランド「ミトス」の第1弾モデルとなる「メルセデス AMG ピュアスピード」を発表。生産台数は限定250台を予定。日本市場への導入は未定
- 2024年10月23日、4輪独立式モーターを搭載するGクラスの電気自動車、G 580 with EQ Technology Edition1を日本で発売。WLTCモードの充電走行距離は530kmで、価格は26,350,000円

メルセデス AMG、メルセデス・マイバッハの上位に位置する新ブランドの「ミトス」は、希少性のある限定モデルを展開していく予定。第1弾はメルセデス AMG SLをベースにしたモデルでしたが、今後はさまざまなモデルが登場すると思われます。

### メルセデス AMG



#### TOPICS

- 2024年11月28日、Eクラスのトップパフォーマンスモデルとなる「Mercedes-AMG E 53 HYBRID 4MATIC+ (PHEV)」を導入。価格は16,980,000円(セダン)/17,260,000円(ステーションワゴン)。導入記念限定車の「Edition 1」も発売
- 2024年12月2日、メルセデス AMG GT クーペに「GT 43 Coupé」を追加。2.0L直列4気筒ターボエンジンを搭載するエントリーモデルで、全幅1,930mmのナローボディを採用。価格は16,500,000円

2024年11月22日にはフル4シーターオープンの「Mercedes-AMG CLE 53 4MATIC+ Cabriolet (ISG)」を発売。こちらはPHEVではなく3.0L直6ターボエンジンに第2世代のISGと電動スーパーチャージャーを組み合わせたものとなります。

### メルセデス・マイバッハ



#### TOPICS

- 2024年11月29日に特別仕様車の「Mercedes-Maybach GLS 600 Night Edition (ISG)」を発売。専用ツートーンペイント、ダークシャドークロームパーツおよびブラックパーツなどを採用した精悍なエクステリアが特徴。価格は41,150,000円
- 「メルセデス・マイバッハ SL モノグラムシリーズ」を日本でも発表。メルセデス AMG SLのマイバッハ版で、エレガント志向のエクステリアと上質素材をふんだんに使ったインテリアが特徴。エンジンは4.0L V8ツインターボエンジンを搭載

2024年6月に発売した「Mercedes-Maybach S 580 Night Edition (ISG搭載モデル)」に続き、GLSにもブラックを基調とした特別仕様車を導入。今後導入されるSLとともに、マイバッハの世界観を拡張しています。

### マクラーレン



#### TOPICS

- 2024年10月6日、アルティメットシリーズ最新作の「W1」を発表。新開発の4.0L V8ツインターボエンジンにEモジュールを組み合わせたハイブリッドパワートレインを採用。同社史上最大の最高出力1,275ps、最大トルク1,340Nmを発揮

- 全24戦で争われたF1の2024年シーズンで、メルセデス製エンジンを搭載するマクラーレンがコンストラクターズタイトルを獲得。1998年以来26年ぶりのタイトル獲得により、チャンピオン記念の特別仕様車が導入される可能性がある

「マクラーレンW1」は「F1」「P1」の後継となるスーパーカー。最新のアクティブエアロダイナミクスと後輪駆動により、公道とサーキットの両方で究極のスーパーカー体験を提供。生産台数は399台で、基本価格は200万ポンド(約3億9000万円)です。

### ランボルギーニ



#### TOPICS

- 「ウルス SE」は、SUVモデル「ウルス」初のプラグインハイブリッドとして登場。4.0L V8ツインターボエンジンに電気モーターを組み合わせ、システム最高出力800ps、システム最大トルク950Nmを発揮する。併せて内外装デザインも一新。価格は31,500,000円

- 「ウラカン」の後継として発表された「テメラリオ」は11月に日本でも公開。パワーユニットは「ウラカン」の5.2L V10自然吸気エンジンから、4.0L V8ツインターボ+プラグインハイブリッドに変更された。システム合計出力は920psを発揮

2023年に登場したフラッグシップモデルの「レヴェルト」に続き、新開発の「テメラリオ」と事実上のフェイスリフトとなったSUVの「ウルス」もパワーユニットをプラグインハイブリッド化。これにより、ランボルギーニの現行車種はすべて電動化されました。

### フェラーリ



#### TOPICS

- 2024年10月17日、最新スペチアーレの「F80」を発表。パワーユニットは、3.0L V6ターボエンジンにフロント2基、リア1基のモーターを組み合わせたハイブリッド方式。駆動方式は4WDで、システム最高出力は1,200psを発生させる

- フラッグシップモデルを7年ぶりにフルモデルチェンジ。「12気筒」を意味する「12Cilindri (ドーディチ チリンドリ)」の名の通り、6.5L V12気筒自然吸気エンジンを搭載。オープンモデルの「12チリンドリ スパイダー」も同時発表

「ラ・フェラーリ」の後継となる「F80」は、「F50」以来スペチアーレの伝統となったカーボン製モノコックを採用。乾燥重量は1,525kgで、0-100km/h加速2.15秒、最高速度350km/hというスペック。799台が限定生産されます。

### ポルシェ



#### TOPICS

- ポルシェ 911は「911T」と「911GT3」をマイナーチェンジ。「911T」ではトランスミッションを6速MTに一本化し、新たにカブリオレを追加。「911GT3」では標準仕様とツーリングパッケージを用意。ツーリングパッケージは新たにリアシートをオプション化

- 電気自動車の「ポルシェ・タイカン」に「タイカン4」と「タイカンGTS」を追加。エントリーモデルとなる「タイカン4」の価格は14,160,000円。スポーツモデルの「タイカンGTS」は旧型から出力を75kW向上。価格は19,520,000円

「911T」と「911GT3」はどちらもハンドルの左右位置が選択可能。「911GT3」のトランスミッションは7速PDKと6速MTの2種類を設定。価格は「911T」が18,650,000円。「911Tカブリオレ」が21,140,000円。「911GT3」は28,140,000円です。



## COMPETITOR INFORMATION

### マセラティ



#### TOPICS

- 2024年12月9日にSUVモデルの特別仕様車「グレカール GT Interni Ghiaccio」のデリバリーを開始。生産終了となった「グレカール GT」に内装色「ギャッチョ」を復刻したもので、ボディカラーは3色から選択可能。各10台の生産で、価格は12,300,000円

- 2024年12月1日、「マセラティ GT2 ストラダレ」の日本導入を発表。「マセラティ GT2」は、同社のミッドシップスポーツカー「MC20」ベースのレースカー。このモデルを公道走行可能なモデルとして仕立てたもので、デリバリー開始は2025年末を予定

「マセラティ GT2 ストラダレ」に搭載される3.0L V6ツインターボエンジンは、最高出力640ps、最大トルク720Nmを発揮。0-100km/h加速は2.8秒、最高速度は324km/h。現時点では価格未定ですが、6000万円程度が見込まれます。

### アストンマーティン



#### TOPICS

- 2024年12月11日、同社初の量産ミッドシップスーパーカーとなる「ヴァルハラ」の最終仕様を公開。4.0L V8ツインターボエンジンに、フロントに2基、8段DCT内に1基のモーターを組み合わせたプラグインハイブリッド仕様のパワーユニットを搭載

- 映画『007』におけるジェームズ・ボンドとの60年にわたるパートナーシップを記念した特別仕様車「DB12 ゴールドフィンガーエディション」を2024年10月14日に発表。劇中車の「DB5」に着想を得た特別な仕様で、生産台数は世界限定60台

「ヴァルハラ」はアクティブエアロダイナミクスにより高速域でのスタビリティを確保。最高出力は1079ps、最大トルクは1100Nmで、0-100km/h加速は2.5秒。最高速度はリミッターにより350km/hに制限。999台のみの限定生産で、納車は2025年下半年以降です。

### ロールス・ロイス



#### TOPICS

- 2024年5月にSUVモデル「カリナン」をマイナーチェンジした「カリナン シリーズII」を発表。内外装デザインの変更により、スタイリッシュさとラグジュアリー感を強化。6.75L V12エンジンは最高出力571ps、最大トルク850Nmを発揮。価格は46,454,040円

- 2024年10月には4ドアモデル「ゴースト」をマイナーチェンジした「ゴースト シリーズII」を発表。エクステリアは新しい意匠のヘッドライト、照明付きグリルなどの採用により印象を一新。インテリアではライトアップされたマスコット付クロックなどの採用が特徴

クロームパーツなどをダークトーンに置き換えた人気のドレスアップバージョンが「ブラックバッジ」。「カリナンII」には「ブラックバッジ カリナン シリーズII」、「ゴーストII」には「ブラックバッジ ゴースト シリーズII」がそれぞれ発表されています。

### ジャガー・ランドローバー



#### TOPICS

- 2024年12月3日、ジャガーはコンセプトモデル「TYPE 00」を発表。躍動感あふれる新しいアイデンティティを表現したこのモデルは、専用の電動アーキテクチャーを採用。最大航続距離770km、15分の急速充電で321kmの走行ができることをターゲットに開発

- グローバル限定車の「ランドローバー・ディフェンダー 110 SEDONA EDITION」を2024年11月15日に受注開始。「ディフェンダー 130」のみに設定されていたボディカラー「セドナレッド」を初採用し、人気のオプションを標準装備。50台限定で、価格は13,004,023円

新生ジャガーの方向性を指し示すコンセプトモデルの「TYPE 00」は、従来のジャガー各車とは何の関係もない文字通りゼロスタートとなる車両。2025年後半には、英国で製造する最初の新世代モデルとして4ドアGTを発表する予定です。

## AWARDS

新型コンチネンタルGT スピードがこのほど、米国の『Newsweek』誌の「Most Anticipated New Vehicle for 2025」に選出されました。この賞は、最も注目される新型車を評価し、自動車愛好家やドライバーを魅了するモデルに与えられるものです。今回の受賞により、ベントレーが長年にわたり培ってきたグランドツーリングの卓越した伝統と、このモデルに盛り込んだ最先端の技術・デザインがあらためて高く評価されました。

Newsweek誌の編集者・アイリーン・ファルケンバーグ・ハル氏は、「力強さと洗練された要素を備えた新型コンチネンタルGT スピードは、ベントレーのラインアップを彩る魅力的なモデルです。今回の賞に選出した理由としては、過去数年にわたるベントレーのデザイン、エンジニアリング、そしてサステナビリティの飛躍的な進歩が挙げられます。また、このパワフルなグランドツアラーには、幅広いカスタマイズの選択肢が用意されているため、その魅力を一層引き立てていることも選出した決め手の1つになりました」などとコメントしています。

今回の受賞を受け、ベントレー アメリカのマイク・ロッコ社長兼CEOは、「2025年に最も期待される新型車として、新型コンチネンタルGT スピードが『Newsweek』誌に選出されたことを大変う



れしく思います。この栄誉は、パフォーマンス、ラグジュアリー、そしてサステナビリティを追求するベントレーの努力を証明し、グランドツーリングの新しい時代を切り開くものです」などと喜びを語りました。

新型コンチネンタルGT スピードは、ウルトラパフォーマンス ハイブリッド パワートレインによりハイパフォーマンスとサステナビリティを両立しています。燃費と排出ガスを抑えながら、パワフルでスポーティな走行を実現し、唯一無二のラグジュアリーな走行体験を提供するモデルです。





100年を超えるベントレー モーターズの歴史の中では、数々の名車が誕生し、世界中のお客様やファンに愛されてきました。ベントレーは現在、電動化への歩みを加速させて新時代の扉を開けようとしています。このブランドを作り上げてきた往年の名車をあらためてご紹介します。今回はスピード シックスです。

スピード シックスは、6 1/2リッターの高性能バージョンとして誕生し、ウルフ・バーナート、ヘンリー・ティム・パーキン卿、グレン・キズトンらによって、1929年と1930年にル・マンを連覇した車両として知られています。

スーパーチャージャーにこだわを持つパーキン卿とは対照的に、W.O.ベントレーには排気量アップこそ出力向上の最善策だとの信念がありました。そこでW.O.は新しく大排気量エンジンの開発に着手しました。この排気量6.6リッターの直列6気筒エンジンを搭載したのが6 1/2リッターで、最高出力は147 bhp (約149 PS) を発揮。当時のベントレーの拠点があったクリックルウッドの工場ですべて製造されました。

スピード シックスは、6 1/2リッターよりもスポーティーな高性能バージョンとして1928年に登場しました。さまざまな改良が加えられた



エンジンの最高出力は180 bhp (約182 PS) まで向上。シャシーは3種類のホイールベース (3,505 mm、3,569 mm、3,874 mm) を用意しましたが、最も短いホイールベースに人気が集まりました。スピード シックスは1928～1930年の間に182台が製造され、ファクトリー レースカーは134インチ (約3,600 mm) のシャシーフレームで製造されました。

スピード シックスのレースカーは、さらなる改良を施して最高出力を200 bhp (約203 PS) まで高めたエンジンを搭載。この車両が1929年と1930年にル・マンを連覇したのです。特に1929年のル・マンでは、バーナートとパーキン卿が駆るスピード シックスがスタートからゴールまでトップを走り続け、さらに3台のベントレーが続いてフィニッシュするという圧倒的な強さを見せました。

現在、ベントレーが所有しているスピード シックスは、2021年に戦前のベントレーの最後の1ピースとしてヘリテージコレクションに加わった車両です。この車両は1929年9月にW.F.ワトソン氏に納車さ

れたという記録が残っており、2005年に完全なレストアが行われ、その際にル・マンで活躍したスピード シックスと同じ仕様に変更されました。



## EVENT

## MAGARIGAWAでリテラーカンファレンス&試乗会を開催 クルー本社やAPACからキーパーソンらも来日

ベントレー アジアパシフィックは10月上旬、コーンズ モーターズが運営するプライベートサーキットのMAGARIGAWAで、リテラーカンファレンスとトレーニングを開催しました。

ベントレー モーターズのクルー本社からは、クリストフ・ジョージ取締役 (セールス&マーケティング担当) を筆頭に、マイク・セイヤー (プロダクトコミュニケーション責任者)、デビッド・パーカー (チーフ・コマーシャル・オフィサー - マリナー&モータースポーツ)、そしてベントレー アジアパシフィックからはニコ・クールマン (アジアパシフィック ブランド ディレクター) など、ベントレーのキーパーソンらはもちろん、メカニックなども含めて20人以上が来日。キーパーソンらは挨拶に立ち、2024年のリテラーの功績に謝意を示しつつ、2025



年以降のプロダクトなどについてのプレゼンテーションを行いました。セールス&アフターセールスのアワードの表彰式も行い、日本のリテラーの多くが表彰されました。その他にはワークショップやチームビルディングも実施。チームビルディングではゲームキャラクターに扮してカートを運転するといった楽しい内容となりました。

これらに加え、日本のお客様やメディアを対象とした新型コンチネンタルGT スピードとコンチネンタルGTC スピードの試乗会も実施。もちろんカンファレンスに参加したリテラーの皆様も試乗し、新型GTの実力を体感していただきました。





# トランスミッションそれぞれの長所・短所

クルマに欠かせない重要な部品がトランスミッションです。  
今回はトランスミッションの種類とその仕組み、長所と短所を紹介します。



## MT

### 基本でありながら、だんだんと少数派に

MT（マニュアル・トランスミッション）は、クラッチとギヤの選択をドライバーが行う方式です。かつては大多数のクルマが採用していましたが、今では一部のスポーツカーが採用するだけの少数派となっています。ポルシェでは7速MTを採用していますが、日本車は、ほとんど6速MTです。



#### 長所

- ダイレクト感がある
- 大パワーに対応できる

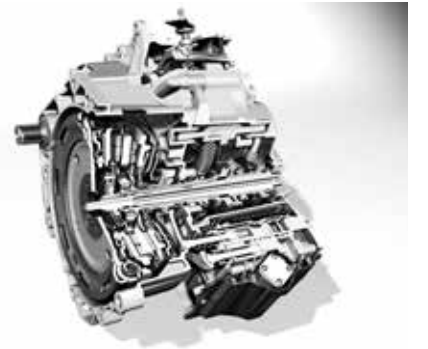
#### 短所

- ギヤ比が固定なので燃費最適にならない
- 運転が面倒である

## DCT

### ドイツ車で人気の方式

マニュアルミッションをベースに自動変速を実現するのがDCT（デュアル・クラッチ・トランスミッション）です。DSGと呼ばれることもあります。ギヤを奇数段と偶数段の2つにわけて、それぞれにクラッチを用意。2つのクラッチを使って変速します。常に次のギヤが用意されているため変速タイムが早いのが特徴です。ベントレーではコンチネンタルGT、GTC、フライングスパーで8速DCTを採用しています。



#### 長所

- 変速タイムが早い
- 大パワーに対応できる

#### 短所

- 低速時にギクシャクする
- ギヤ比固定なので燃費最適にならない

## AT

### 7速や9速など多段化が進む

トルクコンバータと遊星ギヤによって自動変速機を実現するのがAT（オートマチック・トランスミッション）です。ステップATとも呼ばれます。近年は、トルクコンバータでの滑りを極力抑えることで、燃費を向上させています。かつては4速ATが主流でしたが、いまでは7速や9速などの多段化が進んでいます。ベントレーでは、ペンティガとペンティガEWBで8速ATを採用しています。



#### 長所

- 変速時のショックが少ない
- 大パワーに対応できる

#### 短所

- ギヤ比が固定なので燃費最適にならない
- スペース効率が悪くて大きくなる

## CVT

### 日本の小型車に多い

日本車に数多く採用されているのがCVT（コンティニューアスリー・バリエابل・トランスミッション）です。無段階変速機とも呼ばれます。直径を変更できる2つのプーリーに金属ベルトを掛けた構造となります。プーリーのサイズを変えることで無段階に変速します。細かく変速比を変化できるため燃費最適になります。



#### 長所

- 燃費最適になる
- 馬力をより有効に使える

#### 短所

- 加減速のフィーリングが悪い
- 大パワーが苦手